

## 第1学年 社会科（地理的分野）学習指導案

1 単元名 「世界の諸地域」 -北アメリカ州- （東京書籍）

### 2 単元について

- 本単元は、学習指導要領の内容(1)ウを受け、北アメリカ州において地域的特色を捉えさせる学習として設定したものである。北アメリカ州の地域的特色を捉えさせるに当たっては、「大規模農業と工業の発展」を主題とし、学習問題を設定して地域的特色を追究するように単元構成する。北アメリカ州は、北アメリカ大陸とカリブ海の島々からなる州である。赤道に近い地域から北極の近くまで広がり、熱帯から寒帯までと多様な気候帯や自然環境の地域である。かつては先住民が豊かな自然の中で暮らしていたが、現在ではヨーロッパ系をはじめ、アフリカ系、アジア系、ヒスパニックなど様々な民族が分布している地域である。この地域で最も影響力が大きいアメリカ合衆国は、豊富な資源と広大な国土、工業力で世界の超大国に発展している。農業においては、大規模かつ企業的な農業が営まれ、世界有数の食料輸出国として日本をはじめ多くの国々に農産物を輸出している。さらに、工業においても世界有数の工業国となっており、航空・宇宙産業、コンピュータ産業、バイオテクノロジーなどの分野では、進んだ技術力で工業を発展させている。アメリカ合衆国には外国に進出する多くの多国籍企業があり、世界の経済や社会に大きな影響を及ぼしている。このように、進んだ技術力で新しいものを大量に生産し、それらを大量に消費することで経済発展を続け、世界にも大きな影響を与えている北アメリカ州の地域的特色を追究させることは、つながりが深い日本で生活する生徒達にとって意義があることである。
- 本学級の生徒は、社会科の学習に意欲的に取り組む姿勢が見られる。生徒への意識調査では、「社会科の学習は好きか」という質問に対し、約70%の生徒が「好きだ・どちらかといえば好きだ」と答えた。しかし、基礎的・基本的な知識や技能の定着に個人差が見られ、それらを活用して「自分の考えを文章表現したり、説明したりすること」に難しさを感じている生徒が約50%いるのが現状である。また、生徒を対象にした北アメリカ州(アメリカ合衆国)に関する事前アンケートから、国の位置、首都名、大統領の名前や世界に大きな影響を与えているというような大まかなイメージは身に付けていることがわかった。しかし、アメリカから日本に広がったものやその影響等については、十分に把握できていないとはいえない。
- 指導に当たっては、北アメリカ州の知識や概念を習得させ、それらを活用させながら、意思決定を取り入れた討論型の学習を展開する。まず、単元を貫く問いとして、学習問題Ⅰ「北アメリカでは、どのような産業がさかんか調べよう」を設定し、特にアメリカ合衆国について大規模な農業や工業の発展の原因を調べるとともに、人々の生活や世界への影響についてまとめる学習を計画し、知識や概念の習得を図る。その上で、これまで学習したことを踏まえ、世界に広がるアメリカ型の生活様式が資源の大量消費につながったり、国（地域）の良さを薄れさせたりしているなどの問題点を提示した後に、学習問題Ⅱ「日本は、アメリカ型の生活様式を、今後更に取り入れるべきか」の問いを導き出したい。これを論題として討論型の学習を行い、様々な資料を基に多面的・多角的に考察させていきたい。班や学級全体での話し合いで、様々な価値や目指す社会像に触れさせ、自分の考えを深めさせる中で、経済発展を続け、世界にも大きな影響を与えている北アメリカ州の地域的特色を捉えさせたいと考えている。

### 3 単元の目標

- (1) 北アメリカ州における大規模な農業や工業の発展について追究する学習問題を基に、北アメリカ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとさせる。
- (2) 北アメリカ州における大規模な農業や工業の発展について追究する学習問題を基に、多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。
- (3) 北アメリカ州の地域的特色に関する様々な資料を収集させ、有用な情報を適切に選択させ、読み取ったり図表などにまとめたりさせる。
- (4) 北アメリカ州における大規模な農業や工業の発展について追究する学習問題を基に、北アメリカ州の地域的特色を理解させ、その知識を身に付けさせる。

### 4 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度【関】	社会的な思考・判断・表現【思】	資料活用の技能【技】	社会的事象についての知識・理解【知】
○北アメリカ州における大規模な農業や工業の発展について追究する学習問題を基に、北アメリカ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	○北アメリカ州における大規模な農業や工業の発展について追究する学習問題を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○北アメリカ州の地域的特色に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	○北アメリカ州における大規模な農業や工業の発展について追究する学習問題を基に、北アメリカ州の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

### 5 単元計画（全7時間 本時7/7）

過程	主な学習活動	教師の働き掛け(○)	評価(・)評価の観点【】	時配
つかむ	○北アメリカ州の自然、歴史、産業等を概観し、大規模な農業や工業の発展を視点として地域的特色を追究する課題を設定する。	○北アメリカ州の自然、文化、生活、産業の特色を、雨温図、分布図、写真などの資料から読み取らせる。 ○大規模な農業や工業が発展し、世界に影響を与える北アメリカ州の地域的特色を追究する学習問題を設定させる。	・様々な資料から、北アメリカ州の地域的特色を読み取り、まとめている。【技】 ・北アメリカ州の地域的特色について学習問題を考え、調べようとしている。【関】	1
北アメリカでは、どのような産業がさかんか調べよう。《学習問題Ⅰ》				
調べる	○アメリカ合衆国が世界の食糧庫と呼ばれる理由を、様々な資料を基に調べ、その特色をまとめる。	○アメリカ合衆国の大規模で合理的な農業の特色を、気候・生産方法・経営方法の面から調べてまとめさせる。	・農業の特色を、気候・生産方法・経営方法の面から調べまとめている。【技】	1

調 べ る		○日本の農業と比較させながら、特色を調べさせる。	
	○アメリカ合衆国の工業の発展と、世界に与える影響を調べる。	○アメリカ合衆国で発展してきた重工業や先端技術を用いた工業の特色を、写真、グラフ、分布図などから読み取らせる。 ○アメリカ合衆国の工業は、広大な国土と豊かな資源に加えて、ヨーロッパやアジアなどからの移民の存在によって発展してきたことをつかませる。	・アメリカ合衆国の五大湖沿岸と、サンベルトの二つの工業地域について、主な工業の種類とそれが発展した理由を比べて、まとめている。【技】
	○アメリカ合衆国の生活・文化が、世界に与えている影響について調べる。	○アメリカ合衆国の生活・文化が、世界の国々に大きな影響を与えており、身近なところにも様々なものが取り入れられていることをつかませる。	・アメリカ合衆国の生活・文化が世界の国々に与えている影響について理解している。【知】
	○大規模な農業や工業の発展についてまとめ、話し合うべき問題を見だし、学習問題Ⅱとして設定する。また、これを論題として、意思決定1を行う。	○これまでの学習を振り返らせ、大規模な農業や工業の発展についてまとめさせる。 ○アメリカ型の生活様式の良さの問題点に着目させ、日本と比較させながら学習問題Ⅱへ導く。	・アメリカ型の生活様式がもたらす影響を良さの問題点の両面から考え、判断し、それを表現している。【思】
日本は、アメリカ型の生活様式を、今後更に取り入れるべきか。《学習問題Ⅱ》			
考 え ・ ま と め る	○討論型の学習に向けた調査活動と準備を行う。	○自分の考えの根拠となる資料を付けて、理由を説明させる。	・根拠となる適切な資料を探し、自分の考えをまとめている。【思】
	○討論型の学習を通して、様々な価値や社会像に気づき、意思決定2を行う。	○自分の意見を発表する際、根拠を示しながら理由を説明させる。また、目指す社会像についても発表させる。 ○公正に判断させ、意思決定させるために、様々な意見を聞き、質問をするように促す。	・様々な意見を聞き、判断した上で、自分の考えを表現している。【思】

6 本時の目標

アメリカ型の生活様式の導入が及ぼす影響に気付き、今後更に取り入れるべきかどうかを判断し、根拠を基に理由を示して説明することができる。  
 （社会的な思考・判断・表現）

7 展開(全7時間 本時7/7)

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と評価【】
1 前時までの学習を振り返る。 2 本時のめあてを確認する。 〈学級全体〉	○アメリカ型の生活様式がもたらす良さと問題点があったことを確認し、本時のめあてにつなげる。 ○これまでの学習を振り返り、これからの日本について考えることを確認させる。
<b>めあて 日本は、アメリカ型の生活様式を、今後更に取り入れるべきか考えよう。</b>	
<b>社会的な問題【解決すべき事柄】</b> アメリカ型の生活様式を更に取り入れれば、資源を大量消費したり、国(地域)の良さが薄れたりすること。	○学級全体の状況を生徒に把握させるために、挙手によって、現段階でのそれぞれの立場の人数を確認する。 ○事前に、同じ立場の生徒同士でグループ編成を行う。 ○考えを深めさせるために、まずはグループ内で自分の主張を出し合わせたり、お互いに質問をさせたりする。 ○話し合いの中で出された意見をワークシートに記入するように伝える。 ○各自の考えを基に、グループとしての考えを、理由を示してまとめさせる。 ○グループでまとめた主張は、何を大切にすることになるのか、また、どのような世の中を目指すのかについても考えさせる。 ○小型のホワイトボードに、目指す社会像、主張、理由を記入させる。 ○発表する際は、その理由や根拠となる資料を付けて発表するように伝える。 ○他のグループの発表内容等をワークシートに記入させる。 ○様々な考えに触れさせるために、疑問に思ったことや反対(賛成)意見等を生徒から引き出す。
3 自分の主張を明確にする。 〈学級全体〉 4 学習問題Ⅱを解決する。 (1) グループ内でお互いに自分の主張を発表し、意見を出し合う。 〈グループ〉 (2) グループで主張をまとめる。 〈グループ〉 ・グループの主張の作成 ・目指す社会像についての考察 ・小型のホワイトボードへの記入 ・発表者の決定 (3) グループでまとめた目指す社会像と主張を発表する。 〈学級全体〉 (4) グループごとの発表に対して質問し、自分の考えを深める。 〈学級全体〉	

<p>5 「日本は、アメリカ型の生活様式を、今後更に取り入れるべきか」ということについて、最終判断をする。 （意思決定2）〈個人〉</p> <p>6 今日の学習を振り返り、次時の学習について確認する。 〈学級全体〉</p>	<p>○資料で判断したことや、グループで話し合ったことを参考にして、「日本は、アメリカ型の生活様式を、今後更に取り入れるべきか」について、最終的な自分の主張をまとめさせる。その際、これからの日本はどうあるべきかを考えさせ、ワークシートに記入させる。</p> <p>○自分の主張をまとめるに当たっては、必ずしもグループでまとめた主張に従う必要はなく、他のグループの発表等も参考にしながら、個人として判断することを確認する。 【評価】</p> <p>○代表の生徒数名に発表させ、今日の学習を振り返らせる。</p>
---	--

### 8 本時の評価

<p>評価規準</p>	<p>アメリカ型の生活様式の導入が及ぼす影響に気付き、今後更に取り入れるべきかどうかを判断し、根拠を基に理由を示して説明している。 （社会的な思考・判断・表現）</p>		
<p>判定基準 （判断の目安）</p>	<p>十分満足できる状況（A）</p>	<p>おおむね満足できる状況（B）</p>	<p>努力を要する状況（C）</p>
	<p>アメリカ型の生活様式を今後更に取り入れるべきか、賛成か反対の理由を根拠を基に記述している。</p>	<p>アメリカ型の生活様式を今後更に取り入れるべきか、賛成か反対の理由を記述している。</p>	<p>（B）に達していない記述</p>
<p>→（B）、（C）と判断した生徒への支援</p>	<p>→どうしてそう考えたのかを問い、根拠を基に理由を示して書くように指示する。</p>		<p>→板書を基に、キーワードを探るように促し、理由を示して意思決定させる。</p>
<p>評価方法</p>	<p>ワークシートの記述</p>		